

ASEAN STYLE

東南アジアを旅する、 デザイン探訪記。

タイ、シンガポール、カンボジアなど東南アジア10カ国からなる、ASEAN諸国のデザインに新しい種が芽吹きだしている。現地で見つけたクリエイターを中心に、最新トレンドをお届けします！

Photos ASEAN-JAPAN CENTRE, MIDORI SUZUKI Text MIDORI SUZUKI





右ページ 椅子の上にある植物をモチーフにしたクッションは、カンボジアのオレンジリバー社から。
 左ページ **1**、**3** シンガポール・セントーサ島のホテル、カペラ。設計はノーマン・フォスター。**2** インドネシアの家具メーカー、プリマ・プトウラ・ブンガワン社のスツールは、廃材を利用している。**4** カンボジアのワットン・アーティザンス・カンボジア社のシルクのスカーフと、ファブリックアクセサリー。
5 インドネシア・ジャカルタにある有名なカフェ、パタフィアのラウンジにて。パティックのスカーフ、クッション、テーブル上のキャンドルは、すべてアルンアルン社製。床とテーブルに置いた壺はすべて、PT. ジョシュア・カハヤ・セントーサ社のもの。

東南アジアで見つけた、
いま、注目のデザイナー3組。



インパクトの強さはタイでいちばん!
Anon Pairrot

アノン・パイロット



アノンは、2008年にはヴィトラ・デザイン・ミュージアムでのワークショップで、マーティン・パースとコラボレートした実績を持つ、タイでナンバーワンの若手。上「チキンレッグ」のソルト&ペッパー入れ。右「エデン」と名付けられた鹿のオブジェが横たわるソファ。



思わずにっこりする、
キュートなデザインが特徴。

Cilicon Faytory

シリコン・フェイトリー

シンとフェイのカップルで活動する、シンガポールのデザインユニット。作品を見る人に笑顔になってほしい、というのがポリシー。写真のモデルは軽量コンクリートのスツール。ほっこりした丸みのあるフォルムと色のバランスが絶妙だ。



一流メーカーからの
依頼も多数!

Nathan Yong

ネーサン・ヨン

クライアントにリーン・ロゼやリビング・ディバーニといった、ヨーロッパの一流メーカーが名を連ねる。写真は新作の「トウイーティ」チェア。別バージョンでメタルもあり。奥にあるのは、ボックスを連続させたシェルフ「コーナーボックス」。



これまでのアセアン各国は、デザイナーは外から持ち込むことが多かった。しかし、左ページで紹介しているプロダクトからもわかるように、現地での当たりにはしたものは、インハウスデザイナーが力をつけてきていること。デザイナーの質が上がり、安定した労働条件のもとで生産できれば、当然、国際競争力は高まる。アセアンから目が離せないのは、そこに理由がある。

メイド・イン・ジャパンが脚光を浴びている現在、同じくクラフツマンシップをモノ作りの根底にすえた「メイド・イン・アセアン」の製品。これらのアイテムは6月2日から東京ビッグサイトで開かれる「インテリアライフスタイル」でも出展される。

デザイン力の上昇と相まって、メイド・イン・アセアンが日本やヨーロッパブランドと並び称されるような日も、もうすぐには違いない。

これから期待される、
メイド・イン・アセアンの製品。

ふと気がつくとなんとなく身近にあるのが、東南アジア原産のもの。いままでは安価な労働力で、安定した生産を供給する拠点とされてきたが、これからの東南アジアは違う、と思わせてくれたのが今回のアセアン取材旅行。短期間で力のデザイナーが最前線に立っている。

彼らの実力は、ミラノやロンドン、東京で磨かれてきたインターナショナルレベル。アセアン各国のインテリアデザイナー界は、まさにダイヤモンドの原石がごろごろしている状態だ。切磋琢磨することで、ゴージャスなダイヤモンドになる可能性は無限大。いつ、ここから世界的なデザイナーが現れてもおかしくない、という状況なのだ。

ASEAN STYLE



NEW & NATURAL

日本に上陸する、ASEANのプロダクト



日本アセアンセンターについて

日本アセアンセンター（東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター）とは、ASEAN 諸国と日本の貿易・投資・観光の促進を目的として、日本とASEAN 各国政府の協定により、1981年に設立された国際機関。

●加盟国 ブルネイ、カンボジア、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

見本市「インテリア
ライフスタイル」に
ASEANが出演!

会東京ビッグサイト 西ホール
期6月2日(水)~4日(金)



1 タイのウッフスタッフ社のフレグランス製品。人工エランターの中にアロマオイルを入れて使う。2 鮮やかなブルーの花器は、マレーシアのロフィンケラミク社のもの。3 フィリピン・セブ島にあるカタリナ・エンプロイダリーズ社のランプ。4 ラオスのサオバン・ハンディクラフト社による竹かご。5 ブルネイのムハマッド・ムスタキム・エンタープライズ社の刺繍が施されたクッション。6 ミャンマーのガンダマール・シーシェル社から具細工のプレート。7 ベトナムのビーエーカンパニー社による美しい刺繍。

※ここで紹介した製品と「インテリア ライフスタイル」への出展品は異なることがあります。